

札幌市への移住者にむけた図書館協力支援事業

熊谷 梨沙

札幌市中央図書館

はじめに

今回のビジネス・ライブラリアン講習を受講するにあたり、不慣れな zoom を使った研修ということもあり、緊張と不安を抱えながらの参加となった。課題や講義数も多く、またワークショップも綿密な準備が必要で、苦戦を強いられた3ヶ月間であったが、ビジネス支援の知識習得はもちろんのこと、図書館員としての意識をプラスの方向へ大きく変えることができた講習であった。

本レポートで論じる事業は、自身の体験に基づき、札幌市に移住してきた住民の方へ図書館として何らかのサポートができないか？という思いから企画したものであり、ワークショップにおける指摘・アドバイスや本講習で学んだ知識を踏まえ加筆修正した。

1. 札幌市中央図書館の概要

札幌市には47の図書施設¹があり、おもに図書・情報館ではビジネス支援、絵本図書館では児童サービス、地区図書館では地域に根ざしたサービスなど、各館が役割を持ちそれに特化したサービスを行っている。中央図書館は、それらの図書施設において中心的な役割を担う館だ。蔵書数は約88万冊、1階に一般書全般・児童書コーナー、2階に視聴覚資料・洋書・郷土資料・参考図書・相談カウンター、地下1、2階には書庫も備える。都心から路面電車で約20分の中央区南側の山鼻地区に位置する。このエリアは西に藻岩山を望む人気の住宅街であり、公園や学校も隣接している。そういった立地に起因してか、利用者層は高齢者や家族連れ、学生が多い。

2. 事業の背景と現状

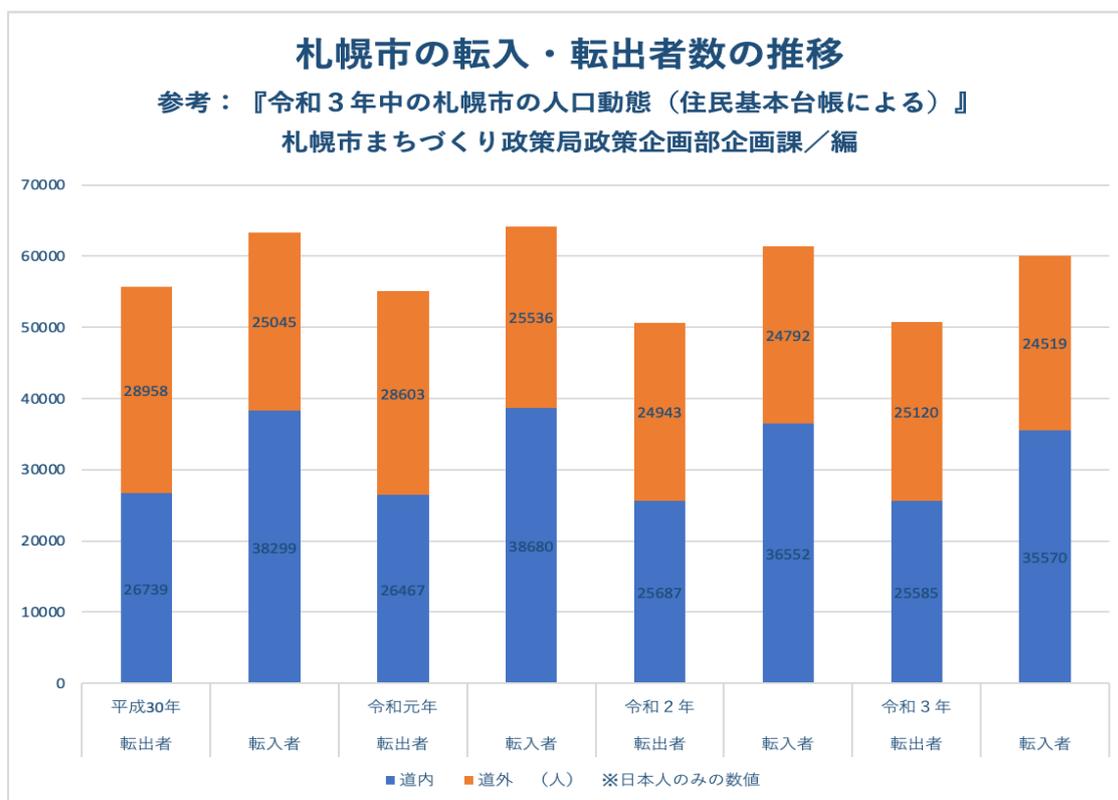
札幌市は北海道石狩平野の南西部に位置する面積1,121.26k m²、人口1,971,279人(2022年2月現在)²の政令指定都市であり、観光を主軸として卸売・小売業や宿泊・飲食業の第3次産業³を中心として発展してきた街である。現在も札幌駅周辺にはJRタワーなどの高層ビルが隣接しているが、北海道新幹線延伸にともない、札幌駅やその東側の創成川エリアでは再開発が進み、近隣では新しい商業施設やホテル、マンションの建設が予定されている。



札幌駅南側正面⁴

2021年10月9日発表の市区町村魅力度ランキング（地域ブランド調査2021）⁵では2012年以来となる9年ぶり7度目の1位となるなど、札幌市はさらに全国的にも注目される住み良い街へと発展しているところである。

そういった背景において、2020年から現在に至るまで新型コロナウイルスの感染拡大により「新しい生活様式」⁶が推奨され、リモートワークなど「どこにいても働ける」という新たな働き方が模索される中で、首都圏から地方都市へ移住を選択する人も増加している⁷。コロナ禍によって職住近接志向が弱まり、地方都市や郊外地域への居住意向が向上し、職場にとらわれない居住選択ができるようになったという指摘⁸もある。また全国の自治体で移住支援制度⁹が多く導入されるようになってきた今日、札幌市でも東京23区からの要件を満たした移住者への支援金給付制度¹⁰を設けるなど、移住への注目が高まっている。平成30年（2018）から令和3年（2021）までの「札幌市の転入・転出者数の推移」¹¹からも読み取れるように、札幌市では転入者数が転出者数を超えるという「転入超過」の現象が見られ、転入者が増加傾向にあることが推察される。さらに道外からの転入者もかなりの割合を占めていることがグラフの数値から明らかである。



3. 事業を実施するための課題

前項で示したように、札幌市では転入超過で移住者増加の傾向にあり、そういった現状において移住住民へのサポートのニーズが高まっていると考える。私事だが、結婚を機に四

国から北海道に移住してきた経験から、移住者が持つ悩み・困り事をいくつか挙げてみる。まず知人がおらず離職していたこともあり、最初の1年は孤独で、言葉のイントネーションの違いなど方言の面でも苦慮した。また、特に冬の雪の多さに圧倒され凍った雪道の歩き方も分からず、ほとんど家から出られなかったことを覚えている。

移住後に最初に訪れた公共機関が区役所であったが、大きな街の役所は規模も人も多くそれだけで気後れしてしまう。役割ごとに部署が分かれ、受付の方は忙しそうで手続きのこと以外は聞けず、どこに行けば気軽に生活のちょっとした相談や情報収集ができるのか途方にくれたものだった。もし、それが図書館であればどうだろう。図書館は「気軽に立ち寄れる」「一同に様々な資料を揃えられる」「調べ方を教えてもらえる」という特色を持つことから、前述した課題を解決できるのではないかと考えた。

4. 事業の概要

本事業の主旨としては、札幌市に移住してきた方々へ図書館としてできる移住後のフォローアップ支援を行うということである。まず図書館の存在を知ってもらう第一歩として、気軽に立ち寄れる出張展示を企画したい。やはり札幌市へ移住してきたばかりの住民を直に図書館へ誘導することは難しいと推測されるため、会場は札幌の交通の拠点・玄関口である札幌駅が最適だと考える。展示内容は移住後の暮らしに役立つ、移住住民の心に寄り添うものにする。また出張展示後に第2弾企画として、移住者向けの講座（全3回）を札幌市中央図書館にて行う。出張展示では紹介できなかった、道外出身者が札幌市で生活する上で習得しておきたい知識・役立つ情報を提供し、すぐに実践できるように一步踏み込んだ内容にする。さらに講座において集うことで、移住者交流の機会が生まれるということもこの企画のねらいである。なお、事業の具体策は6項で述べることにする。

5. 事業の対象者

道外から移住してきたばかりで、札幌市の生活に不慣れで不安や疑問を抱えている住民の方を対象とする。講習において、対象者のペルソナをはっきりさせるのも効果的とお話があったので、もう少し深く対象者を掘り下げるとすれば、結婚やパートナーの転勤などの理由で移住するにあたって離職しており、札幌市に親戚や知人もいない状況で、外部との直接的な繋がりがほとんどないといった境遇の20代後半～40代前半の女性を主な対象としたい。

6. 事業の具体策

①出張展示

会場：札幌駅西ロイベントスペース 南面（45㎡）

開催時期：1年目は夏休みで人の往来が多い8月、2年目は転入シーズンの4月を予定

パネル・資料の展示

自然・歴史・食べ物・雪国ならではの暮らし方をパネルにして展示。また札幌市移住に関連する行政資料や図書を展示し、札幌市の魅力だけでなく実際に住んでいて困ることや役立つ情報を伝える。

体験コーナー

凍った道の歩行体験や、靴底用滑り止めを装着して歩き心地を試してもらう氷上体験コーナーを設置。またイベントスペースの隣にある北海道どさんこプラザ札幌店に協力を要請し、道産グルメ(味噌ラーメンを予定)の試食を行い、実際に体験し味わっていただき、札幌市での「暮らし」や「食」について身近に感じてもらう。



相談コーナー

札幌まちづくり政策局政策企画部企画課の職員に連携要請し、専門部署のノウハウを持った相談員を2名配置して移住に関する質問や相談に答える。当日で答えられなかった場合は相談者の連絡先を聞いておき、後日情報を提供する。またオンラインでの相談も受け付けるようにする。

ブックリスト・リーフレット配布

移住後の生活に役立つ資料を紹介したブックリストや札幌市の概要・豆知識、改めて相談できる部署・機関の連絡先、参考になるHPアドレスを記載したリーフレットを作成、配布する。これらは、展示イベント終了後も区役所の戸籍住民課などに置いてもらい、転入届を提出した方に配布する。以下にブックリスト掲載資料例をあげる。

食： 『私たちが食べ伝えたい北海道の郷土料理』 星澤幸子／著 中央公論新社 2018.7

雪： 『さっぽろ雪の絵本 みんなの声でつづる、雪対策ストーリー』

札幌市建設局土木部雪対策室計画課 [2014]

移住： 『さっぽろ圏移住ガイド』 札幌広域圏組合 2019.10

生活： 『札幌市民便利手帳 令和3年度版』 札幌市 2021.4

起業： 『札幌市起業進出ハンドブック 2021』

札幌市掲載観光局産業振興部 IT イノベーション課立地促進係 [2021]

働く： 『Sapporo Co-Working Map2020』 さっぽろ産業振興財団 2020

歴史： 『さっぽろ文庫 第1～100巻』 札幌市教育委員会文化資料室／編 札幌市 1977-2002

②移住者向け講座

会場：札幌市中央図書館内 研修室

開催期間：夏頃（7～8月）を予定

全3回、定員20名程度、オンラインでも視聴可



第1回「雪国の暮らしへの備え」

雪国の家の構造(二重窓、玄関フード)、雪かきの

仕方、冬靴の選び方や防寒対策、雪害についてなど、実際に雪国で暮らすために必要な知識や情報を分かりやすく提供する講座。

第2回「北海道の食材で Cooking」

道産食材を使った料理講座。道外出身者には馴染みがないが北海道のスーパーでよく目にする魚介類、例えば生ホッケや北寄貝などの調理方法や気軽に作れる料理を一緒に作っていく講座である。

第3回「札幌で、お仕事を始めよう！」(就職・起業応援講座)

北海道よろず支援拠点のスタッフを講師に招き、実際に札幌市で働こうと思っている方へのきっかけ作りとなる講座にしたい。この講座から、本格的なビジネス支援の相談に発展すれば、札幌市図書・情報館の資料やデータベースも紹介し専門機関等へ繋いでいく。

あわせて札幌市中央図書館2階展示スペースにてブックリスト掲載資料を展示し、貸出可能なものは新規利用者登録を積極的に勧めて借りていってもらおう。また、すべての講座終了後に移住者交流会(状況によりオンライン交流会)開催を予定している。この講座を受けた方同士が繋がり、また1年後2年後に新たな移住者が来た時には講師を依頼するなど、移住者の輪がどんどん広がりネットワークとなって連鎖していくことがねらいである。

なお、①、②の具体策と同時進行で、図書館のホームページに移住者向けの情報共有ページを作成し、移住に関する各種情報やブックリスト、リーフレット等のデータを掲載、また図書館の公式インスタグラムで展示や講座の様子や最新情報を発信していくことも考えている。

7. 事業の連携先

- ・札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課（札幌市役所内）
- ・北海道さっぽろ「食と観光」情報館（札幌駅内）
- ・北海道どさんこプラザ札幌店（札幌駅内）
- ・北海道よろず支援拠点（北海道中小企業総合支援センター内）



8. 参考となる先進事例

- ・ さっぽろ暮らしのススメ（札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課）
<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/citypromote/move/>
- ・ 北海道さっぽろ圏移住フェア（北海道さっぽろ圏移住フェア事務局）
<http://sapporoken-iju.jp>
- ・ 体験移住「ちょっと暮らし」（一般社団法人 北海道移住交流促進協議会）
<https://www.kuraso-hokkaido.com>
- ・ みかさぐらし（三笠市移住定住情報） <https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/mikasalife/>
- ・ Tanoshimo タノシモ（北海道下川町移住交流サポート WEB）
<https://shimokawa-life.info>
- ・ えひめ移住ネット（愛媛県公式 移住ポータルサイト） <https://e-iju.net>
- ・ 高知家で暮らす。（高知 U・I ターンサポートメディア） <https://kochi-iju.jp>
- ・ 福がお〜かぐらし（福岡県移住・定住ポータルサイト）
<https://ijuuteijuu.pref.fukuoka.lg.jp>

9. スケジュール

1年目に準備期間と試行期間を設け、2年目に本格的に実施し、3年目でこれまでの反省を踏まえ事業内容を再検討し改善しながら定着させるという流れを考えている。

事業のスケジュール	
1年目	準備期間・試行実施
4～6月	連携先とのミーティング、展示イベントスペースの予約
	パネル・ブックリスト・ポスター・リーフレット作成
	講座の講師の依頼、講座レジュメの印刷
7月	図書館、連携先のHPに事業予告掲載

8月	出張展示を実施	<u>図書館 HP に移住者向けページを開設</u>
9～10月	講座を3回実施	<u>公式インスタグラムへの投稿</u>
11～12月	1年目の反省ミーティング、2年目の計画・準備	
2年目	本格的に始動	
4月	出張展示を実施	
7～8月	講座を3回実施	
9月～12月	2年目の反省ミーティング、企画見直し、3年目実施への準備	
3年目	前年度の反省を踏まえ、より良い事業を模索し定着させる	

10. まとめ－事業の目的とその効果について－

ここまで札幌市への移住者にむけた図書館協力支援事業について論考してきたが、最後に本事業の目的とその効果について述べておきたい。繰り返しになるが、本事業の目的は札幌市に移住した方々への様々な疑問や不安を解消するため、図書館としてできる移住後のサポートを行うこと、移住者同士のコミュニケーションの場づくり、そして北海道の食に親しみを持ってもらうため地場産品をPRすることがあげられる。この事業をきっかけに図書館に足を運んでもらい、図書館をどんどん活用してもらい、図書館のリピーターになってもらうこと。そして就職や起業、リモートワークなどの相談に発展し、ビジネス支援に繋がるという派生効果も期待できる。また札幌市の商店・飲食店を利用し北海道の地場産品を購入し味わってもらうことで、コロナ禍で打撃を受けている地場産業の経済回復への効果が見込まれる。この事業を機に、図書館が街と住民に良い効果・循環をもたらす潤滑油のような役割を担うことを期待する。

おわりに

「転入超過」「移住者の増加」という、現在札幌市が直面している社会問題から生まれた課題を、いかに図書館が解決しサポートしていけるか、ここまで論じてきた。今後もその動向を見極めながら、さらに新たな支援策を考えていく必要があると思う。これまでは、ビジネス支援に関してどちらかという受け身の考え方であったが、この講習を受講し課題やワークショップに取り組んだことで、自ら自身の住む街の問題について真剣に考え事業を企画し、「今、図書館では何ができるか？」という問いについて積極的に向き合うことの重要性を身をもって学ぶことができた。

ICTが目まぐるしく発達した現代、図書館もその流れに取り残されることのないように、最新の情報やツールを使ったレファレンスができるよう日進月歩していかなければならな

い。しかし、コロナ禍のこの混沌とした時代に人々が求めているものは、果たして情報提供の俊敏さ、無駄なものを一切省いた無機質な最新情報だろうか。私はそれだけではないと考える。本講習で印象に残っているのは、フォローアップ研修で豊田先生が仰っていた言葉、図書館員は「ヘルパー」でいることが大事、良い「聴き手」であること、利用者に寄り添って一緒に歩もうという態度、共感が大切だということ。ビジネス支援でも、またどんなレファレンスでも、これは大切な真髄となるものだと感じた。

利用者一人一人に寄り添い、精神的な部分でもサポートしながら、利用者と共に課題を解決していける、そんな図書館員でありたいと強く思う。

最後に、本講習で熱弁を振るってくださった講師の方々やアドバイザーの先生、ワークショップで共に切磋琢磨した6班の皆さま、そして職場においてサポートしてくださった皆さまに感謝の意を表したい。

引用・参考文献

- 1 『札幌市の図書館 2021』
<https://www.city.sapporo.jp/toshokan/guide/sisin/liv/2021.html>
- 2 札幌市 人口統計 <https://www.city.sapporo.jp/toukei/jinko/jinko.html>
- 3 札幌市の概況
<https://www.city.sapporo.jp/toukei/gaikyo/documents/sapporosinogaikyour3.pdf>
- 4 さっぽろ観光写真ライブラリー ※本レポート掲載の写真は全てこのサイトより引用
<https://www.sapporo.travel/sightseeing.photolibrary>
- 5 地域ブランド NEWS「市区町村魅力度ランキング」（第16回地域ブランド調査2021）<https://news.tiiki.jp/articles/4698>
「札幌市、魅力度1位 ブランド総研調査、9年ぶり【北の200万都市生らサッポロ】」
『日本経済新聞』2021.10.12 地方経済面 北海道
- 6 厚生労働省「新しい生活様式」の実践例
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html
- 7 『東京を捨てる コロナ移住のリアル』澤田晃宏／著 中央公論新社 2021.4
- 8 坪井志朗ほか著「コロナ禍を境とした人口動態の変化と居住地選択の意向変化に関する研究－愛知県豊田市をケーススタディとして－」日本都市計画学会都市計画論文集 Vol.56 No.3 2021.10
https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/56/3/56_1405/_article/-char/ja/
- 9 『移住。成功するヒント』朝日新聞出版／編著・発行 2021.6
- 10 札幌市 移住による就業者・起業創出事業（移住支援金）
https://www.city.sapporo.jp/keizai/koyo/ijyu_shienkin/ijyu_shienkin.html

¹¹ 『令和 3 年中の札幌市の人口動態(住民基本台帳による)』 札幌市まちづくり政策局政策
企画部企画課／編 2022.1

<https://www.city.sapporo.jp/toukei/tokusyuu/documents/r3dotai.pdf>